

月曜評論

マレー半島を縦貫して

インドシナ戦後のアジアに
は、いまだ新しい国際秩序が形
成されていない。それだけに、
アジアはいま激しい流動と再編
の過程にある。そのような状況
のなかで、この夏も、アジア・
太平洋地域には、様々な事件が
起こった。南太平洋の一隅、ポ
ルトガル領チモール島の凄惨な内
戦、ボルネオ（マレーシア）の
サバ州の独裁者ムスタファの反
逆（分離独立への動き）とその
挫折、サバとはスルー諸島を
介して連なるフィリピンとのミ
タナオ島における回教ゲリラ事
件（日本人女性人質おまび末広
丸事件）、マレーシアの首都ク
アラルンプールにまで進出した
共産ゲリラ事件やタイ・マレー
シア国境一帯でのゲリラ活動の
激化、ククリット「民主主義」
政権下タイにおける左右の小反
乱、フノンペン陥落後約半年後

このようなアジアの流動と再
編の過程でアジアに広がる「中
国の影」と深刻な中ソ対立が
アジア諸国にどのような波紋を
投げつつあるのかをテーマに、
このようにアジアの流動と再
編の過程でアジアに広がる「中
国の影」と深刻な中ソ対立が
アジア諸国にどのような波紋を
投げつつあるのかをテーマに、

シソガポールからバンコクま
で、約二、〇〇〇キロの行程を二
つの国境を越えて汽車で旅行
することであった。私は、約一
週間をかけて、この行程を一、
二、三等車のすべてを乗り継い
で単身旅行して帰国したばかり
である。私にとって今回の汽車
旅行は去る一月にモントールのウ
ランバートルから北京まで、中
国内不安が増大しているのではな
いかとみなしつつ、米中国交の
いかにとまなしつつ、米中国交の



中嶋 嶺雄

い）のあいだに、かえって対中
正覚化以後のゲリラ活動激化へ
の不安が高まっているからであ
る。大部分が中国人から成るマ
ラー共産党の活動が盛んになれ
ば、それを理由に、かつての人
種暴動（一九六九年）よりも大
規模な反中国人暴動が起きるの
ではないかとの不安が華人の側
に生じたことの意味が、この意
識が自国に生じているタイ南部へ
の取材旅行から帰ったばかりの
ある華字紙記者は、ベトナムに
残されたアメリカの武器がタイ
国境を經由してマラー共産党に
流れていると断言していた。

る地方的ないしは地域的な動き
を反映しつつ、新しいアジアの
方向に影響を与えずにはおこな
わなければならない。今回の調査旅行の
なかの一つの試みは、ASEAN
の終結によってアジアの国際政
治の従来の枠組が大きく崩れた
のち、それにかわる新しい国際
秩序がまだ未形成である状況
において噴出した事件だといっ
てもよい。

私はこの九月月中旬、海外学術
調査プロジェクトの研究代表者
として東南アジア諸国をけけま
わっていた。今回の調査旅行の
なかの一つの試みは、ASEAN
の終結によってアジアの国際政
治の従来の枠組が大きく崩れた
のち、それにかわる新しい国際
秩序がまだ未形成である状況
において噴出した事件だといっ
てもよい。

テール・エンドをインドネシア
と競うことに賭けているかのよ
うであった。

一方、ASEAN諸国の先頭
に立って対中国交を実現したマ
レーシアでは、中国問題が再び
新しい課題になりつつある。い
わゆるマレーシア化政策（マレー人
優先政策）の進展に反発するマ
レーシア華人（人口の半数に近
い）のあいだに、かえって対中
正覚化以後のゲリラ活動激化へ
の不安が高まっているからであ
る。大部分が中国人から成るマ
ラー共産党の活動が盛んになれ
ば、それを理由に、かつての人
種暴動（一九六九年）よりも大
規模な反中国人暴動が起きるの
ではないかとの不安が華人の側
に生じたことの意味が、この意
識が自国に生じているタイ南部へ
の取材旅行から帰ったばかりの
ある華字紙記者は、ベトナムに
残されたアメリカの武器がタイ
国境を經由してマラー共産党に
流れていると断言していた。

このような中国問題について
の複雑な反応も、タイでは、ふ
いふ間気が大きくなっている。
この国の大部分の人々には中国
人の血が流れているにもかかわらず
、これまで中国はタイで
あり、禁断の国であったのに、
今回の国交正常化でその禁が一
挙に解かれたあふたけに、対中
国感情はきわめてよく、対中国
は、まだまだ続くことみなれば
なるまい。

（東京外語大助教授

ママママ………▲▲▲